

令和 7 年度 横浜市立神橋小学校 全国学力・学習状況調査の結果と分析

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力ありがとうございます。

令和 7 年度の 4 月に 6 年生が受けた全国学力・学習状況調査の結果と分析をお知らせします。

【学習の結果「平均正答率 (%)」】

	国語	算数	理科
神橋小学校	70%	65%	59
神奈川県 (公立)	66%	59%	57
全国 (公立)	66.8%	58.0%	57.1

国語正答率	神橋	県	全国	算数正答率	神橋	県	全国
話すこと 聞くこと	68.3	66.5	66.3	数と計算	70.1	63.5	62.3
書くこと	73.1	69.9	69.5	図形	62.4	55.8	56.2
読むこと	61.2	57.5	57.5	測定	62.6	55.1	54.8
情報の扱い方に 関する事項	65.0	63.7	63.1	変化と関係	63.4	59.9	57.5
言葉の特徴や使い 方に関する事項	76.7	73.3	76.9	データの 活用	68.7	63.2	62.6
我が国の言語文化 に関する事項	86.4	81.3	81.2				

理科正答率	神橋	県	全国
エネルギーを柱 とする領域	52.9	46.6	46.7
粒子を柱とする 領域	53.6	51.7	51.4
生命を柱とする 領域	50.7	51.2	52.0
地球を柱とする 領域	68.6	66.6	66.7

【改善に向けて】

〈国語〉

思考力・判断力・表現力などを観点する視点である「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての観点で、全国平均を上回っている。特に、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題において、正答率が高い傾向にある。

その反面、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる記述問題については不正解及び、未回答率が高かった。

〈算数〉

学習指導要領の領域である「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のすべてで全国平均を上回っている。特に、基本的な計算の性質を生かして数量関係を捉えることや、必要な情報を選び数量の関係を式に表したり計算したりすることにおいて、正答率が高かった。反面、記述問題には弱く、共通する単位分数を見だし、その幾つ分かを数や言葉を用いて記述する問題や基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題では正答率が低かった。

〈理科〉

A区分である「エネルギー」を柱とする領域に関する問題において、実験の条件を確かめ、実験を行い、結果を求めていくことに関してはこれまでに学習した内容を概ね理解し、学習内容が身につけているといえる。

しかし、実験方法を発想し、表現することができるかどうか問う問題や実験の結果から、考えられる新たな問題を見出したり、理由を答えたりする問題においては、正答率が全国平均を下回っている。条件制御をし、自分の力で実験を組み立てていく力は弱いと言える。

誤答の内容を見ると、「問題の趣旨とは異なる回答」や「問題文中に書いてある結果を用いず、自分の考えのみの回答」という傾向がみられる。

【全体】

神橋小学校の回答を見ると、どの分野の問題でも選択肢から正答を選ぶ問題では、高い正答率を表している。誤答率が高かった問題は記述式の問題であった。

このことから、今後の学習の中で、「問題文や資料を読み取り、問われている内容を理解すること」と「分かったことからどのようなことが考えられるのかを考察すること」の力を養うことが必要であると考ええる。

新しい単元を学ぶ際には、復習を丁寧に行い既習事項の確認をしながら学習を進めながら、自分の考えを「書く」ことを大切にしながら学習を進めていきたいと考える。